

香川県内企業経営動向調査による景況感の現状および見通しについて (2020年9月実施)

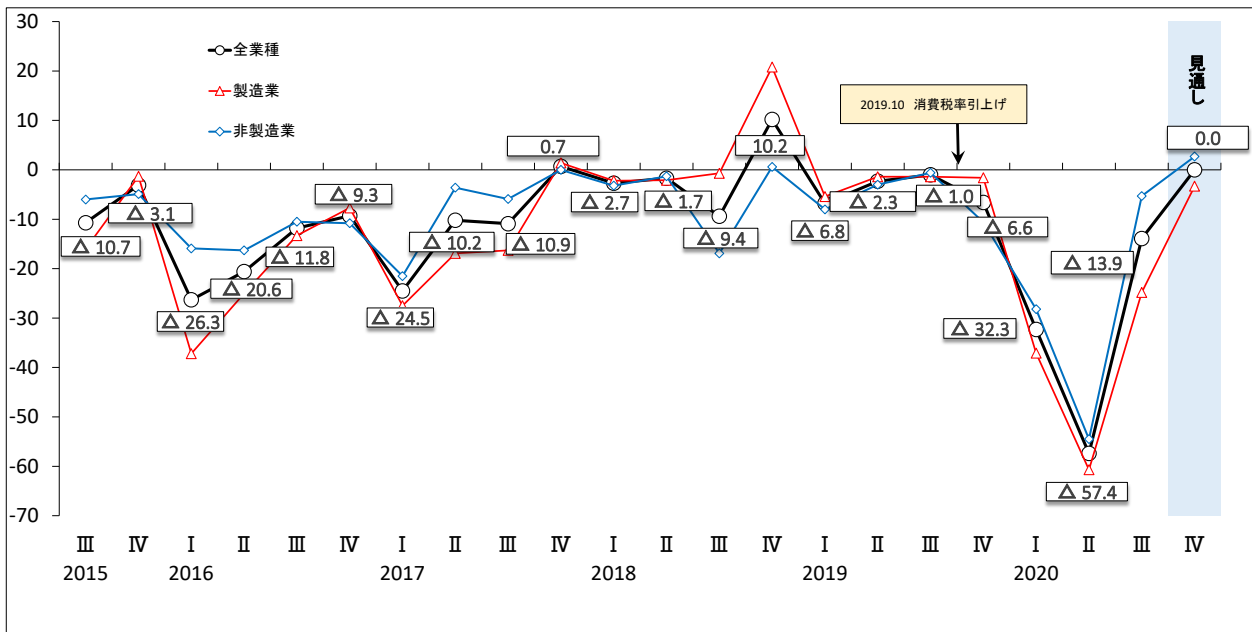
～景況感は過去最大の43.5ポイント上昇～

1. 全体の概況

今期(2020年7～9月期)県内企業の業況判断BSI(全業種)は、前期の△57.4から43.5ポイント上昇し△13.9となった。製造業は、前期の△60.7から35.9ポイント上昇し△24.8となった。非製造業は、前期の△54.5から49.2ポイント上昇し△5.3となった。

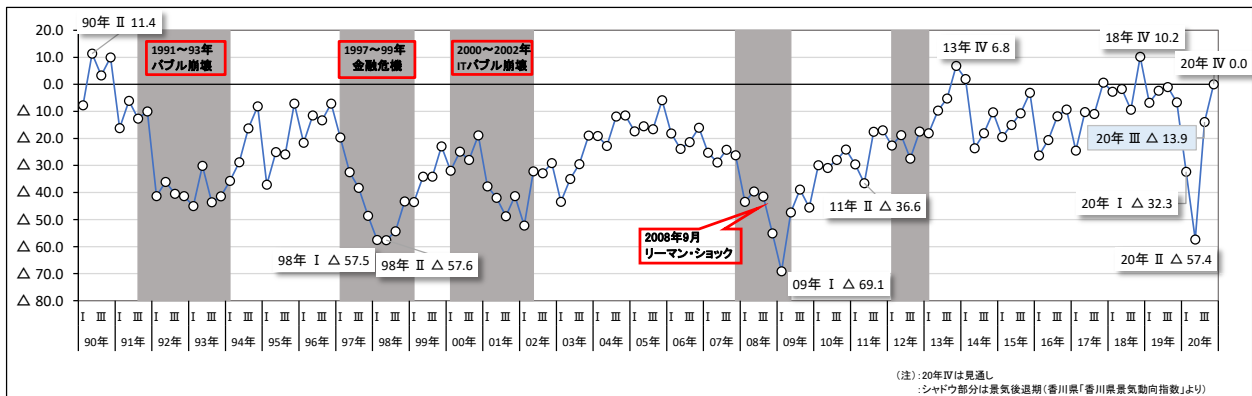
来期BSI(全業種)は、今期の△13.9から13.9ポイント上昇し0.0となる見通し。製造業は、今期比21.5ポイント上昇し△3.3、非製造業は、今期比8.0ポイント上昇し2.7となる見通し。

業況判断BSI(全業種・製造業・非製造業)



業種	実績													見通し
	2017 III	IV	2018 I	II	III	IV	2019 I	II	III	IV	2020 I	II	III	
全業種	△ 10.9	0.7	△ 2.7	△ 1.7	△ 9.4	10.2	△ 6.8	△ 2.3	△ 1.0	△ 6.6	△ 32.3	△ 57.4	△ 13.9	0.0
製造業	△ 16.3	1.4	△ 2.2	△ 2.1	△ 0.7	20.8	△ 5.4	△ 1.4	△ 1.4	△ 1.6	△ 37.1	△ 60.7	△ 24.8	△ 3.3
非製造業	△ 5.9	0.0	△ 3.2	△ 1.3	△ 16.9	0.6	△ 8.0	△ 3.0	△ 0.6	△ 10.6	△ 28.2	△ 54.5	△ 5.3	2.7

業況判断BSI 長期推移



2. 業況判断 BSI

(1) 今期 (2020 年 7~9 月期) 実績

今期 BSI は、コロナ禍の影響で大幅に落ち込んだ前期の△57.4 から△13.9 と 43.5 ポイント上昇。上昇幅はリーマン・ショック後 (2009 年 4~6 月期) の 21.7 ポイント (△69.1→△47.4) を上回り、調査開始以来最大の上昇となった。

業種別でみると、製造業は前期の△60.7 から△24.8 と 35.9 ポイント上昇。その内訳をみると、基礎素材型は前期比 6.0 ポイント上昇。加工組立型は、機械器具製造業が好転して前期比 22.5 ポイント上昇。生活関連型は、食料品製造業や家具・装備品製造業が持ち直して前期比 74.5 ポイントと大きく上昇した。

非製造業は、前期の△54.5 から△5.3 と 49.2 ポイント上昇。その内訳をみると、建設業は、前期比 32.5 ポイント上昇。卸売・小売業は機械器具小売業などが好転して前期比 34.3 ポイント上昇。運輸業は、陸運などが持ち直して前期比 56.6 ポイントと大きく上昇。サービス業等は、不動産賃貸業、宿泊業などが持ち直して前期比 62.5 ポイントと大きく上昇した。

(2) 来期 (2020 年 10~12 月期) 見通し

来期 BSI も、経済活動再開への期待感から、今期の△13.9 から 13.9 ポイント上昇し 0.0 となる見通し。

業種別でみると、製造業は、今期の△24.8 から 21.5 ポイント上昇し△3.3 となる見通し。その内訳をみると、基礎素材型は、化学工業やプラスチック製造業などが好転して今期比 31.0 ポイント上昇。加工組立型は、機械器具製造業などが好転して今期比 20.4 ポイント上昇。生活関連型は、食料品製造業や繊維工業などの好転から今期比 13.6 ポイント上昇する見通しである。

非製造業は、今期の△5.3 から 8.0 ポイント上昇し 2.7 となる見通し。その内訳をみると、建設業は、設備工事業などが持ち直して今期比 11.2 ポイント上昇。卸売・小売業は、繊維・衣服等関連が好転して今期比 7.6 ポイント上昇。運輸業は、運輸全般の持ち直しが続いて今期比 26.7 ポイント上昇。サービス業等は、情報サービス、賃貸、広告業など幅広い業種に先行きへの期待感が広がって今期比 3.2 ポイント上昇する見通しである。

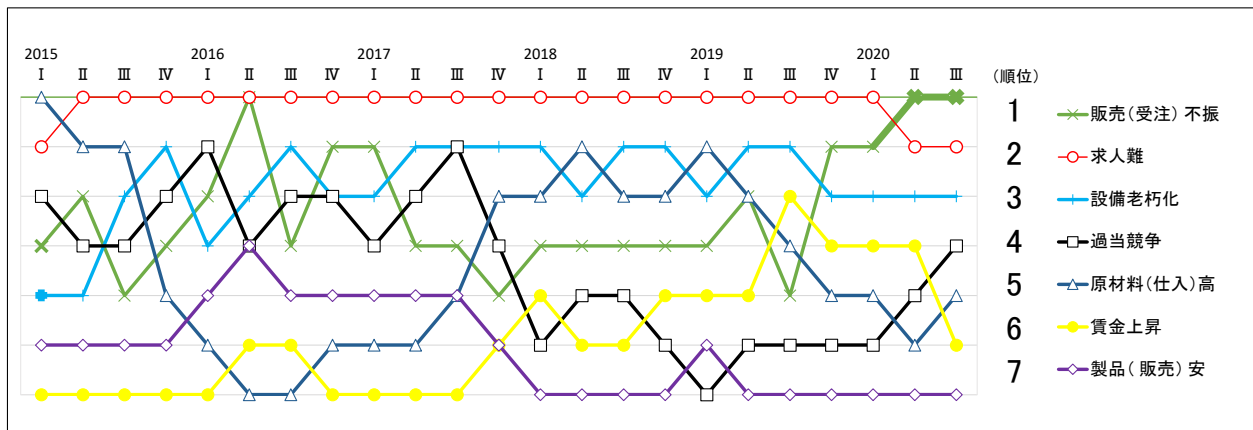
業種別業況判断 BSI

業 種	実 績												見通し	
	2017 Ⅲ	Ⅳ	2018 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2019 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	2020 Ⅰ	Ⅱ		Ⅲ
全業種	△ 10.9	0.7	△ 2.7	△ 1.7	△ 9.4	10.2	△ 6.8	△ 2.3	△ 1.0	△ 6.6	△ 32.3	△ 57.4	△ 13.9	0.0
製造業	△ 16.3	1.4	△ 2.2	△ 2.1	△ 0.7	20.8	△ 5.4	△ 1.4	△ 1.4	△ 1.6	△ 37.1	△ 60.7	△ 24.8	△ 3.3
基礎素材型	0.0	△ 12.0	△ 4.5	△ 8.5	6.5	20.8	△ 7.7	△ 5.8	△ 18.4	△ 4.8	△ 34.2	△ 48.9	△ 42.9	△ 11.9
加工組立型	△ 10.5	5.6	9.1	10.5	9.5	22.7	14.3	△ 2.4	9.1	△ 15.8	△ 15.2	△ 56.8	△ 34.3	△ 13.9
生活関連型	△ 31.4	10.0	△ 6.6	△ 5.5	△ 14.8	19.2	△ 18.5	4.1	6.4	13.0	△ 52.8	△ 74.5	0.0	13.6
非製造業	△ 5.9	0.0	△ 3.2	△ 1.3	△ 16.9	0.6	△ 8.0	△ 3.0	△ 0.6	△ 10.6	△ 28.2	△ 54.5	△ 5.3	2.7
建設業	△ 6.3	6.3	8.3	0.0	△ 10.0	10.0	16.7	△ 9.1	4.2	5.0	0.0	△ 38.1	△ 5.6	5.6
卸売・小売業	2.5	5.6	4.7	2.1	△ 9.8	8.2	△ 18.0	0.0	0.0	△ 32.0	△ 17.8	△ 45.8	△ 11.5	△ 3.9
運輸業	△ 33.3	△ 37.5	0.0	△ 9.5	△ 41.2	12.5	△ 6.3	△ 12.5	29.4	6.3	△ 50.0	△ 83.3	△ 26.7	0.0
サービス業等	△ 10.0	0.0	△ 12.3	△ 1.4	△ 17.9	△ 9.3	△ 9.7	△ 1.3	△ 10.0	△ 4.1	△ 40.3	△ 58.0	4.5	7.7

3. 経営上の問題点

経営上の問題点を複数回答で尋ねたところ、「販売（受注）不振」が最も多く、2期連続で1位となった。前期に5年振りに順位を下げた「求人難」が前期と同じ2位、また「賃金上昇」が前期の4位から6位に順位を下げる一方、「過当競争」が順位を上げている。景況感は改善するものの、コロナ禍の影響は続いており、人材面よりも販売（受注）面を課題とする企業が多くなっている。

経営上の問題点 順位の推移（上位7項目）



【企業経営動向調査概要】

- ① 調査時期：2020年9月3日～2020年9月30日
(毎年3・6・9・12月実施)
- ② 調査事項：業況、受注高、生産高、売上高、在庫高、資金繰り、銀行借入、設備投資、雇用、採算の各項目別BSI、設備投資目的、採算の好転・悪化要因、経営上の問題点
- ③ 調査方法：郵送及びWebによるアンケート方式
- ④ 調査対象：県内に本社または主工場を持つ主要企業407社
- ⑤ 有効回答率：67.3%（有効回答数274社）

【業種別回答数及び構成比】

業種	回答社数	構成比
全業種	274	100.0%
製造業	122	44.5%
基礎素材型	42	15.3%
加工組立型	36	13.1%
生活関連型	44	16.1%
非製造業	152	55.5%
建設業	18	6.6%
卸売、小売業	52	19.0%
運輸業	15	5.5%
サービス業等	67	24.5%

【7業種区分】

製造業	
基礎素材型	木材・木製品製造業(家具を除く)、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業
加工組立型	はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業
生活関連型	食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、家具・装備品製造業、印刷・同関連業、なめし革・同製品・毛皮製造業、その他製造業
非製造業	
建設業	総合工事業、識別工事業、設備工事業
卸売・小売業	飲食料品、一般商品、繊維・衣料品等、建築資材、金属材料、機械器具等の卸売・小売り
運輸業	陸運、海運、空運、倉庫業、荷役業ほか
サービス業等	情報通信業、不動産業・物品賃貸業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、機械整備ほか

(注) 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない場合がある。(本文中の図表も同様)